

漁業経済学会 短 信

【第 72 回大会について】

代表理事の佐野です。遅くなりましたが、2025 年度学会大会についてお知らせいたします。

開催日時は 6 月 7 日（土）～8 日（日）、場所は東京海洋大学で開催いたします。東京と地方で、交替で開催を行うことになっておりますが、今回は東京での開催となります。詳細は下記の通りです。

当学会大会も今年で 72 回目となりました。昨年度から北日本漁業経済学会と統合し、会則や活動内容も大幅に刷新されたところです。日本の漁業・水産業も当学会が発足して以来、大きく変わってきました。特に近年においては度重なる自然災害、気候変動と海水温上昇など自然環境の変化に加え、少子高齢化と漁業労働力不足、円安傾向の定着と水産物貿易構造の変化、TPP や EPA に代表されるグローバル化の進展とパンデミックや国際紛争によるグローバル化への信頼感喪失、漁業法の改正と規制緩和の拡大、テクノロジーの進化とスマート漁業の進展、海外漁業との漁場争奪激化、国内消費の縮小と輸出拡大など、漁業をとりまく経済・社会環境が大きく変わりました。当然ながら日本の漁業・水産業、そして漁業経済研究も変わることが求められています。

当学会は 70 年にわたり漁業経済研究の中核学会として日本の漁業・水産業に向き合い、学術活動を通じてその健全な維持・発展を目指してきました。しかし現実の日本の漁業・水産業の発展は期待通りとはいかず、時々の状況を反映して様々に変化しながら、全体としては縮小の一途を辿っていることを否定できません。他方、漁業・水産業や漁村の持つ食料安全保障上の意義、また多面的機能すなわち「社会的共通資本」としての意義はむしろ高まりつつあり、これらをどうやって市場経済の中に位置づけるのか、が大きな課題となりつつあります。この点で当学会の社会的な存在意義も鋭く問われていると言えるでしょう。

我々はそうした期待や批判から逃げず、漁業・水産業の経済問題を真正面から受け止め、これまでそうであったように漁民や漁協、漁業経営体や水産業関連業者そして行政担当者らとともに悩み、これからも日本と世界の漁業・水産業を守るために行動する学会でありたいと願っています。

さて、今回のシンポジウムは「漁業協同組合の過去・現在・未来」というタイトルで開催されることになりました。折しも 2025 年は「国際協同組合年」です。これは、持続可能な生産と消費、食料安全保障、気候変動対策、地域の人々への医療・福祉、働きがいのある人間らしい仕事の創出、すべての人が参加できる社会づくりなど、さまざまな分野で持続可能な開発目標に貢献している協同組合の認知の向上と協同組合の振興のために、国連が定めたものです。漁業協同組合もこの「協同組合」の一形態であり、様々な観点において日本漁業の中核であったことから、当学会にとっても長らく重要な研究対象でした。資源管理組織における漁民集団としての共同体的機能や経済面における漁業支援機能の充実が、日本漁業の発展を支えてきたことは広く知られているところです。しかし現在、その存在が揺らいでいます。戦後に構築され 80 年近く維持されてきた日本社会の伝統的秩序が徐々に崩壊しつつあり、それを基盤としてきた漁協も様々な観点から掘り崩されようとしています。このような時代を迎え、漁業経

済学会も今一度、漁業協同組合の存在を振り返り、その本来的な意義を忘れず、しかし時代の変化に対応し、漁業者と国民双方の期待に応える新時代の「漁協」を考えていかねばならないと思います。会員のみなさまと一緒に、「漁協」を見直し、考え直す機会となれば幸いです。

また6月8日（日）午後には、ミニシンポを計画しております。タイトルは「内水面漁協が今すぐできること」です。一昨年に引き続き、水産庁職員として様々な形で内水面漁業の管理・調整に関わってこられた櫻井政和会員に、これまであまり論じられることのなかった「内水面漁業」についてのミニシンポを企画していただきました。こちらもお時間が許す限り、是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

■シンポジウムおよび一般報告：Teams を用いたリモート配信を予定しています。聴講のみとなりますが、会場参加が難しい会員におかれましては、是非ご利用下さい。

■理事会および総会：対面のみで開催します。

■大会及びシンポジウムのプログラムや報告要旨：後日 HP 上に掲載いたします。ご覧下さい。

72 回大会へのみなさまのご参加を心よりお待ちしております。お気をつけてお越し下さい。

（漁業経済学会会長 佐野雅昭）

【第 72 回大会のご案内】

■場所：東京海洋大学（〒108-8477 東京都港区港南4-5-7）

■日程：2025 年 6 月 7 日（土）～8 日（日）

6 月 7 日（土）

10：00～11：30 理事会

13：00～17：30 大会シンポジウム 「漁業協同組合の過去・現在・未来」

18：00～20：00 懇親会

6 月 8 日（日）

10：00～12：00 一般報告

12：00～13：00 総会

14：00～16：30 ミニシンポジウム 「内水面漁協が今すぐにできること」

■大会参加申し込みと参加費

大会への参加は無料ですので、特に事前申し込みは必要ありません。

■WEB 参加について

- ・ Web での大会参加が可能です。Teams を使用いたします。
 - ・ ただし、報告については基本的に対面のみとさせていただきます。
 - ・ Teams で web 参加するための URL は後日、漁業経済学会 HP に掲載させていただきます。
- しばらくお待ちください。
- ・ 大会にご関心をお持ちの会員外の方にも適宜ご案内ください。

■懇親会

第 72 回大会の懇親会を以下の通り、開催いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時：2025 年 6 月 7 日（土）18：00－20：00

場所：東京海洋大学品川キャンパス大学生協食堂

会費：5,000 円（事前振り込み）

申し込み方法：以下の URL か 右の QR コードからから

参加申し込みをしてください。

参加申し込み期限：5 月 31 日（定員 50 名）



https://app.payvent.net/embedded_forms/show/6787834c32c6d0268b247e2b

【大会シンポジウム】

漁業協同組合の過去・現在・未来

コーディネイター：工藤貴史（東京海洋大学） 佐野雅昭（鹿児島大学）

■シンポの趣旨と報告内容

第 72 回大会シンポジウムは 6 月 7 日(土)13：00～17：30 に予定しております。詳細は後述いたしますが、今回は「漁協」に焦点を当てました。現実の漁業において、漁協の存在意義が問われています。かつて漁協は漁村におけるオールマイティな存在でした。本来漁協は地域共同体そのものであり、漁場利用調整を巡っては地域をまとめる唯一無二の意思決定機関でもありました。漁業種類ごとに漁協下部に作られた部会組織は地域資源を管理する主体となり、漁業権行使規則などのローカルルールを作成・運用してきました。また民間企業が採算性の欠如を理由にそのサービス網を延長しなかった条件不利地における唯一のサービス提供機関として、販売、購買、金融、保険など漁業経営だけではなく生活支援においても様々なサービスを漁民に提供してきました。

しかし、現在ではそうした状況が大きく変わりつつあります。物流網やネット環境が日本の隅々まで整備され、民間企業のサービス範囲が拡張しました。今では離島の漁民でも Amazon で米国の漁具を簡単に買える時代なのです。グローバリゼーションが徹底的に進み、漁村の生活を変えました。改正漁業法でも、漁協の地位はさまざまな文脈において低下しています。水産政策では個が「もうける」ことや個の「経済成長」が最大目標となり、漁協を中核とした「協働」や漁民と漁村の全体的な「営み」を軽視する傾向が強まっています。漁業者自身も変わりました。スマホとともに産まれたデジタルネイティブと呼ばれる Z 世代の漁民も増えており、ネットを通じて世界と繋がっています。漁民個々が直接市場や消費者と繋がることを志向し、ダイレクトなネットワークがいたるところで見られるようになりました。こうした政策や社会の変化は地域共同体である漁協の意義を弱めています。漁協を飛び越えた漁民と消費者、企業の結びつきが増え、地域を越えた漁民の機能的なグループ化が進みました。逆に漁村外からも、環境 NPO やネットビジネス企業などから様々な手が漁民個々を抱え込むように伸びています。

これまで漁村の中核であった漁協の存在意義やそれに対する帰属意識は、明らかに薄れていると言えるでしょう。

このような状況において、漁協は今その存在意義を問われています。漁協は漁民にとって、これからも絶対に必要な存在、民間企業では代替できないものなののでしょうか。また国民や社会そして漁民にとって、漁協は必要なものなののでしょうか。もしそうであるとするならばそれはなぜなののでしょうか。我々漁業経済研究者は、そうした率直な国民と漁民の問いかけに、誠実かつ丁寧に答える必要があるでしょう。

当シンポジウムでは、現代における漁協の存在意義や今後の展望を検討する機会を設け、今後の当学会における漁協研究を深化・促進させる契機としたいと考えています。そこで漁協の存在意義やそのための課題、分析視角などを、多様なバックグラウンドを持つ報告者により多角的に提示していただき、会員間で共有することを第1の目的としました。

まず第1報告では濱田武士氏（北海学園大学）にこれまでの漁業論の研究史を概説いただき、それを踏まえた現代的な論点を提示していただきます。次いで第2報告では全国的な漁協の活動を総括している全漁連様より、現代の漁協の全体像や2025年からの新しい運動方針をお話しいたします。第3報告では鈴木崇史氏（鹿児島大学）から、漁協の販売事業とくに疲弊が進む南九州の小規模産地卸売市場におけるその現状と課題について報告いただきます。第4報告では、阿部富士夫氏（宮城県漁協）より、志津川支所戸倉出張所における指導事業の取り組み、漁協による漁場管理と経営改善についてお話しいたします。最後の第5報告ではコーディネーターの工藤貴史（東京海洋大学）より、これまでの活動範囲を越えた漁協の新しい取り組みと可能性について、具体的な事例に基づき報告いたします。

漁協は単純で画一的なものではなく、こうした短時間のシンポジウムで議論し尽くせるものではありません。そこで当シンポはまず漁協研究の過去を踏まえ、不十分ではありますが現在の漁協を再確認し、将来の漁協像を各会員それぞれが様々に展望する機会になれば良いと考えております。そこでこういうタイトルとさせていただきました。なお、養殖業や沖合・遠洋漁業は漁協との関わり方が大きく異なることが多いため、今回は漁船漁業特に沿岸漁船漁業に焦点を当てた議論を行いたいと考えています。積極的なご参加をお待ちしております。

■シンポジウムの会場とプログラム

（報告者やタイトルなど下記内容は変更される可能性があります）

6月7日（土） 東京海洋大学大講義室

- | | | |
|-------------|-----------------|---------------------------------------|
| 13：00～13：15 | 佐野雅昭（鹿児島大学） | 代表理事挨拶 及び シンポ趣旨説明 |
| 13：20～13：50 | 濱田武士（北海学園大学） | 「漁協論の研究史から見る現代的課題」 |
| 13：50～14：10 | 全漁連 | 「JF グループの新たな運動方針とその課題」 |
| 14：10～14：20 | 休憩 | |
| 14：20～14：40 | 鈴木崇史（鹿児島大学） | 「漁協販売事業の現状と課題」 |
| 14：40～15：00 | 宮城県漁協志津川支所戸倉出張所 | 「漁協による漁場管理と経営改善～宮城県漁協志津川支所戸倉出張所の取り組み」 |
| 15：00～15：20 | 工藤貴史（東京海洋大学） | 「漁村における漁協の今日的役割」 |
| 15：30～17：30 | 総合討論 | |

【ミニシンポジウム】

内水面漁協が今すぐにできること

企画・司会・コーディネーター：櫻井政和（水産庁）

■日時：6月8（日）14：00～16：30

■会場：東京海洋大学品川キャンパス

■プログラム

開会（趣旨説明） 櫻井政和（水産庁）

報告（いずれも仮題）

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 中村智幸（水産研究・教育機構） | 「内水面漁協の特性と現下の状況・課題」 |
| 2 村瀬和典（郡上漁業協同組合） | 「岐阜県郡上漁協の漁場管理と今日的課題」 |
| 3 加賀豊仁（栃木県漁業協同組合連合会） | 「栃木県漁連の『やたらいいのに会議』の取り組み」 |
| 4 川村幸ノ介（東京海洋大学） | 「内水面漁協における電子遊漁券導入の効果と課題」 |
| 5 中川拓郎（神奈川県水産課） | 「神奈川県内の河川におけるアユルアー導入の効果」 |

コメント 瀬川貴之（（一社）Clear Water Project）

工藤貴史（東京海洋大学）

総合討論

■企画の趣旨

第70回大会（2023年）のミニシンポジウム「内水面における漁場管理の展望と課題」において、内水面の漁場管理に関する課題と対応方策を整理し、主に政策的な対応について議論を行った。今回のミニシンポジウムでは、その後の議論の進展や状況の変化、また、本年は国際協同組合年であり、大会シンポジウムにおいて海面の系統組織が取り上げられることも踏まえ、内水面漁協等による実践的な対応について議論する。

内水面の系統組織が持つ特性等を確認した後、現場での具体的な取り組みについて報告いただく。総合討論では、報告のあった事例を多角的に分析・評価することに加え、「現場実態に即して考える」観点から、内水面漁協・漁連から見た時の「取り組みやすさ」や「効率的な情報共有、横展開」を意識して議論する予定としている。

内水面の現場が抱える課題は、構造的な要素に起因するものも多いが、上記の議論を通じて内水面の系統組織による持続的な活動を可能とする途を探りたい。

【一般報告の受付（再掲）】

■タイトル受付締切日：2025年5月9日（金）必着（締め切り厳守）

■報告要旨受付締切日：2025年5月16日（金）必着（締め切り厳守）

■提出方法：一般報告のタイトル・報告要旨はWordで作成し、メールの添付ファイルで送付ください。

■報告要旨の形式：1,600字以内。報告要旨には、タイトル、報告者の氏名と所属、要旨を入れてください。（※メールの件名に、「漁経2025一般報告・送信者名」を明記のこと。）「」は不要。

■提出先：三木奈都子（総務） メール gyokeisoumu@gmail.com

【学会賞候補者の推薦（再掲）】

学会賞候補者の推薦を募集しています。

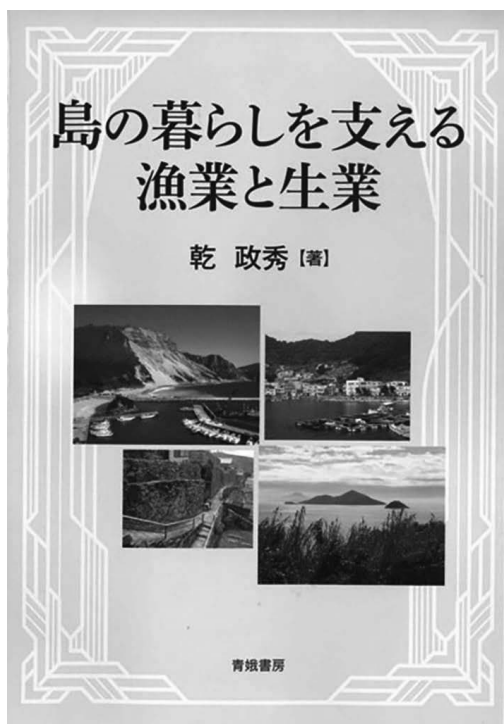
2025 年 4 月末までに候補対象者名と理由を記して事務局（総務：三木奈都子）までお送り下さい。
お送り頂いたものは学会賞選考委員会に提出いたします。

（※メールの件名に、「漁経 2025 学会賞推薦・送信者名」を明記のこと。）「」は不要。

■提出先：三木奈都子（総務） メール：gyokeisoumu@gmail.com

【本の紹介】

水産経済に関わる近著をご紹介します。



乾政秀 著

「島の暮らしを支える漁業と生業」

青娥書房



水口憲哉 著

「元氣な漁村

海を守り、にぎやかに暮らす」

フライの雑誌社

【編集後記】

第72回大会は東京海洋大学で開催いたします。

今年が国際協同組合年であることから、大会シンポジウムのテーマは「漁業協同組合の過去・現在・未来」といたしました。

皆様の積極的なご参加をお待ちしております！

漁業経済学会短信 No. 159

2025. 3. 31

漁業経済学会事務局（総務：三木奈都子）

（メール：gyokeisoumu@gmail.com）

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 本部
〒221-8529 横浜市神奈川区新浦島町

1-1-25

TEL：045-277-0025、FAX 045-277-0013